



大滝川

## 大滝川左俣

一九八四年七月七日

入る前から滝はないだろうと考え  
ていたが、予想通り何もなしだっ  
た。

不動沢との出合から右岸の道を歩

く。道が沢を横切る所から入溪。支  
沢がいくつか入り、小滝もいくつか  
越えて進むと、やがて二俣。本流の  
左俣に入る。

ナメと三筋の小滝を越えると、あ  
とは何もない。水縁に導かれてとに  
かくつめてゆくと、やがて水も涸れ、  
源頭に出てしまった。遊行終了一  
時一〇分。(記)

「タイム」 遊開始(九:五〇) ↓

俣(一〇:三〇) ↓ 終了(一一:一  
〇)

## 長老沢

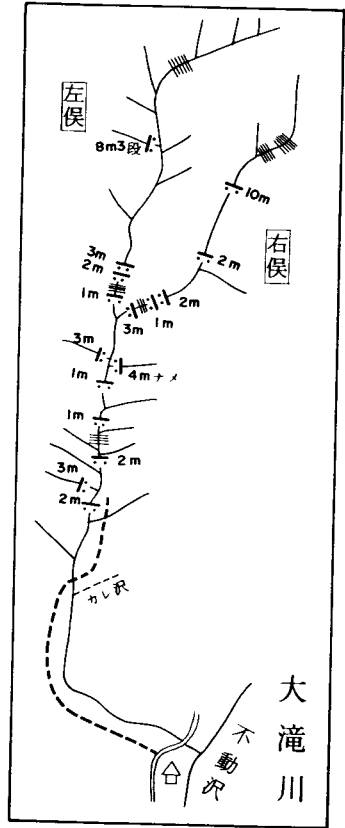
上

一九八二年五月二六日

中野第二トンネルを出ると、すぐ  
右側にドライブインがある。ここに  
車を止めて入溪。わらじを履いて小  
川を渡り、出合より遊行開始。左岸  
には、伐採用の道がある。  
歩き始めてすぐ砂防ダムがある。

左岸より越えると、そのあとしばら  
くは平坦で何もない。小沢が二本合  
流するあたりから、左岸には伐採地  
が続く。

中洲を過ぎ、両岸がせまってくる  
ようになると、左岸に一〇分程の滝



# 大滝川右俣

一九八四年七月七日

大滝川左俣進行終了後、ヤブをこ

いで尾根を越え、右俣の下降に移る。いったん出てきた水の流れが一度消え、再び出てきた先に一〇段階段状の滝。案に降りられる。あとは二俣までいくつかの小滝があるのみであった。

(記)

【タイム】 下降開始(一一:四〇) ↓

二俣・下降終了(二二:一五)

(大西)

ちよつと変わった樹木②

## キハダ(ミカン科)

キハダの木は、山の中では普通の人には見分けることが難しい木である。いや、玄人でも難しい。▼五、六月頃に枝先にクリーム色の花をつけ、一〇月頃に黒い実をつける。▼キハダの名前の通り、表皮をむくと幹との間に黄色の内皮が出てくる。▼この内皮が薬となっている。

湿布剤、胃腸薬、染料として昔から多用され、実は殺虫剤としても用いられてきた。▼知識なしで生木の皮を剥ぐと枯れてしまうので、この木の見分け方など知らない方が良くも…。